



<参考図版>

本展では、日本の彫金の伝統を継承しつつ、それを現代の感覚で斬新に展開する平松保城の初期から現在にいたるまでの約 80 点の作品で、オブジェ、器、ジュエリーという領域を横断して広がるその造形思考を読み解いていきます。

東京国立近代美術館工芸館
2008年10月4日(土)~12月7日(日)

かたちのエッセンス 平松保城のジュエリー

Photo: 齋城卓

《スカルプチャー ウェイト》1973年
(東京国立近代美術館蔵)
真鍮、銅、ロジウムメッキ



お問い合わせ
広報担当
e-mail : cg-pr@momat.go.jp

平松保城（ひらまつ やすき・1926- ）のジュエリーは、シンプルなかたちのなかに金属のあたたかみをたたえています。その作品は、一本の金属の線から、金属板（面）の仕事へ、量塊へと広がりを見せています。そして、さらにはジュエリーという領域をも越えて、日常で使われる器や、壁面に設置される立体作品へと続いています。空間全体を含み込んだかたちへの意識は、再びジュエリー制作へと視線を戻したとき、平松のジュエリーを特徴づけるエッセンスとなっていることが明らかとなります。

戦時中、学徒兵として軍隊生活を送った経験から、平松は生きることへの切実な思いを抱くようになりました。人間が生きる上で真に価値のあるものを、という願いから、生活の中で使う喜びや楽しさを喚起するクラフトやジュエリーの制作に、とくに力を入れて取り組んできました。

1950年代半ば、宝石や貴金属の価値にとらわれず、かたちやデザインに重きをおくコンテンポラリー・ジュエリーが西欧からもたらされると、平松はこのムーブメントに共鳴し、その核となる考え方によって、自身の制作をいっそう盤石なものとしていきます。一方、海外での個展開催などをとおして、平松の作品は、簡潔なフォルムのなかに素材に対する美意識を表現したとして高く評価され、1994年には、金工で名高いドイツのジュエリーアート協会（ハーナウ）から、ヨーロッパ以外では初めて「名誉のゴールド・リング」を授与されました。

Photo: 斎城卓



作家略歴

1926年4月30日 大阪市生まれ 父は彫金家の平松宏春

1947年 東京美術学校工芸科彫金部に入学（～52年）

1950年 第6回日展に《彫金魚文花器》を出品（51～54年、56年）

1954年 大阪学芸大学助手となる

1959年 《エレガント丸盆（金・銀・黒）》がグッドデザイン賞を受賞
個展開催（毎日会館画廊、大阪） 以後国内外で多数開催

1962年 東京藝術大学工芸科助手となる

1964年 日本ジュウリーデザイナー協会が設立され創立会員となる
手工芸及び工業国際見本市特別展「Form and Quality」（ドイツ）にジュエリーを出品

1970年「70日本ニュークラフト」展（銀座松屋、東京）で《スカルプチュア・ウエイト》と《銀・リング》が
「70ニュークラフト賞」を受賞

1976年 東京藝術大学助教授に就任

1977年「東京国立近代美術館工芸館開館記念展 現代日本工芸の秀作」に《ブローチ》等を出品

1978年 第8回世界クラフト会議京都でメタル部門のコーディネーターを務める

1983年 ジュエリーの国際公募展「83国際ジュウリー・アート展」で審査員を務める

1984年 東京藝術大学教授に就任（～94年）
「今日のジュエリー 世界の動向」展（京都国立近代美術館ほか）に《プレスレット》、《リング》を出品

1990年 第41回芸術選奨文部大臣賞受賞

1994年 ドイツのジュエリーアート協会（ハーナウ）より「名誉のゴールド・リング」を授与される

1995年 通産省デザイン功労者の表彰を受ける

1996年 第24回国井喜太郎産業工芸賞を受賞

2001年「コンテンポラリー・ジャパニーズ・ジュエリー」展（クラフツ・カウンシル、ロンドン）

2006年 「ジュエリーの今：変貌のオブジェ」展（東京国立近代美術館工芸館）



Photo: 斎城卓

展示構成

身体装飾 - アート・ジュエリー

1950年代前半、はじめて制作されたリングは、一本のアルミニウムの金属線にリズムカルに錠目をつけたのみというシンプルなものでした。平松のジュエリーは、文字通り、この一本の金属の線の仕事から、金属板や箔を使った面の仕事へ、そして量塊へと広がっています。金錠や鑿を用いて、あるいは金銀の箔を手のなかで揉み込みしわをつけるなどして、金属の多様な表情を引き出しています。金属の加工法に伝統的な日本の美意識が息づく彫金技法を身につけた平松ならではの表現と言えるでしょう。

《ブローチ》1998年
金 (K20)



Photo: アローアートワークス

生活のなかのかたち - 器

このセクションでは、平松の作品の特徴である明快な幾何学形態のルーツを、器制作を例にとって探っていきます。制作プロセスにおいても徹底的にシンプルであることを貫く姿勢から、素材の美と手わざが融合した平松独自の形態が生まれてきます。

《花器 飛》1993年
銅、金箔



人・物・空間 - 立体造形

平松保城は、戦後間もない1947年から52年まで、東京美術学校で学びました。戦争体験によって現代社会や生活へと向けられた意識は、やがて人間と物と空間との関係を作品で表すことへと方向を定めていきます。在学中より日展を中心に発表された作品には、パブリックスペースへの設置を前提としたものが多く見られます。空間全体を射程に入れた制作は、以後の平松の作品において基調をなしていきます。

《あゆみより》1993年
鉄



Photo: 斎城卓

同時開催「所蔵作品展 近代工芸の名品 - 陶芸」

同時開催(10月4日~12月7日/「平松保城のジュエリー」展料金で観覧可)で紹介する今回の所蔵作品展は、当館の代表的な陶芸作品を詳細な解説と共に掲載した『工芸館名品集 - 陶芸』(2007年刊行)に基き、近現代陶芸の名品を展覧するもので、当館初の試みとなります。全52点の掲載作品から選りすぐった作品を展示。作品解説とあわせてご覧いただければ幸いです。

タイトル	かたちのエッセンス：平松保城のジュエリー	
	YASUKI HIRAMATSU - Jewelry: The Essence of Form	
会期	2008年10月4日(土)～12月7日(日)	
開館時間	午前10時～午後5時 *入館は閉館30分前まで	
休館日	毎週月曜日(10月13日、11月3日・24日は除く)、10月14日(火)、11月4日(火)・25日(火)	
主催	東京国立近代美術館	
助成	財団法人美術工藝振興佐藤基金	
協力	アイティーエル株式会社	
会場 (アクセス)	東京国立近代美術館工芸館 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1 Crafts Gallery, The National Museum of Modern Art, Tokyo	
	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口 徒歩8分 東京メトロ東西線/半蔵門線・都営新宿線「九段下駅」2番出口 徒歩12分	
観覧料 *同時開催展料金も含む	一般 200(100)円 大学生 70(40)円 高校生および18歳未満、65歳以上、キャンパスメンバーズ、MOMATパスポートをお持ちの方、 障害者手帳をお持ちの方とその付添者1名は、無料 *いずれも消費税込。()内は20名以上の団体料金。 *割引・無料には、学生証、年齢のわかるもの、障害者手帳等の提示が必要です。 観覧の当日に限り、美術館(徒歩5分)で開催中の各展覧会料金で、本展もご覧いただくことが できます。 「エモーショナル・ドローイング」展(企画展ギャラリー) 本展初日～10月13日 「沖縄・プリズム 1872-2008」展(企画展ギャラリー) 10月31日～本展最終日 「所蔵作品展 近代日本の美術」(所蔵品ギャラリー) 本展会期中の10月14～17日以外	
無料観覧日	10月5日(日)、11月2日(日)・3日(文化の日)、12月7日(日)	
お問合せ先(掲載用)	03-5777-8600(ハローダイヤル)または http://www.momat.go.jp/ (ホームページ)	
イベント	アーティストトーク	10月26日(日) 午後2時～ 平松保城(出品作家) 作家略歴はP.2
	ギャラリートーク	当館研究員によるトーク。11月30日(日) 午後2時～
	タッチ&トーク	ボランティアスタッフによるガイド。毎週水・土曜日 午後2時～
	*いずれも参加無料(要展覧会チケット) 申込不要	
内見会	10月3日(金)PM 予定。事前に広報担当までお申し込みください。	
同時開催	「所蔵作品展 近代工芸の名品 - 陶芸」 *当館研究員によるギャラリートークも開催します。10月12日(日) 午後2時～ 概要はP.3	
プレゼント	展覧会をご紹介いただける場合には、 読者プレゼント用招待券 をお渡しできます。	
人間国宝・ 巨匠コーナー	国内外の工芸やデザインを代表する作家の作品を常時紹介するコーナーです。 (テーマ等の詳細は、決まり次第 HP でお知らせします)	

年 月 日 ()

FAX : 03-3211-7783 (工芸課) 広報担当行>>>

広報用図版請求票

作品図版はJPGデータをご用意しています。その他の形式については、事前にご相談ください。
 同時開催の展覧会作品図版についても、別途お問い合わせください。
展覧会広報にのみご使用ください。著作権保護のため、他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
 掲載見本を広報担当へご寄贈くださいましたら幸いです。

No.	キャプション(作品名、制作年、所蔵、フォトクレジット)
1	(スカルプチャー ウェイト) 1973年(東京国立近代美術館蔵) Photo: 斎城卓
2-1	(ブローチ) 1978年(東京国立近代美術館蔵) Photo: 斎城卓
2-2	(プレスレット、リング) 2007年 Photo: 斎城卓
3-1	(ブローチ) 1998年 Photo: アローアートワークス
3-2	(花器 飛) 1993年
3-3	(あゆみより) 1993年 Photo: 斎城卓

読者プレゼント用チケット 希望枚数 _____

ご担当者名 _____ e-mail _____

貴社名 _____

出版物・放送番組・サイト名 _____
 (http://www. _____)

掲載予定号・発行日 / 放送・UP日時 _____

PHONE _____ (_____) FAX _____ (_____)

〒 _____
 ご住所 _____